

〔用語解説〕

この用語解説は、インフォテリアから提供する文書内での意味を説明するものです。必ずしも一般的な用法用例を一致するとは限りません。（アルファベット、50音順）

用語	解説・定義
EAI	Enterprise Application Integration の略。企業内の情報システム連携や統合を行うためにデータ連携を行うこと、またはそれを実現するためのソフトウェアのカテゴリ名称。
EDI	Electronic Data Interchange の略。企業間の商取引を電子的に実現する仕組みで、受発注や見積、決済、出入荷などのデータを、あらかじめ標準化した形式に従って、専用線や VAN※などのネットワークを通じて送受信すること。
ERP	Enterprise Resource Planning の略。企業内の資源（Resource）を全体統合的に管理することで経営の全体最適を求めるソフトウェア。代表的なものに独 SAP 社の「SAP R/3」がある。
HTML	Hyper Text Markup Language の略。ブラウザで表示する Web ページを記述するための標準のデータ形式。現 W3C のディレクターである Tim Berners-Lee 氏によって 1990 年に開発された。
OEM	Original Equipment Manufacturing の略。相手先企業の商標（ブランド）をつけて販売される完成品や半成品の受注生産。相手先ブランド生産。相手先商標製品製造。
SaaS (サース)	Software as a Service の略。ソフトウェアそのものをインターネット上に置いて、プロダクトとしてではなくサービスとして提供すること。課金の方法も導入時に一括ではなく、月額使用量や従量による課金が一般的。
SOA	Service Oriented Architecture の略。企業内外の各機能を情報システムにおける「サービス」として扱うことで、環境の変化に即応できる企業システムを構築するためのアーキテクチャ※。XML は、SOA の重要な要素である Web サービスを実現する基本技術である。
Twitter (ツイッター)	ユーザーの 140 文字以内の「つぶやき」によって構成されるサービス。マイクロブログとも呼ばれる。2009 年から日本国内でも普及を始めている。
Web 2.0	近年インターネット上で起こっている新しい潮流の総称。インターネット上のサービスを、提供者から一方的に提供するのではなく、利用者側が参加できたり、利用者側が必要な形にサービスを組み合わせたり加工することができるのが特徴の一つと言われている。
Web サービス	インターネット標準技術を用いベンダーや OS の違いを超えて企業内外のシステム連携を実現する仕組み。主として XML と HTTP※を使用する。

用語	解説・定義
XBRL	eXtensible Business Reporting Language の略。企業財務情報を XML で記述するための仕様。全世界での採用が進んでおり、国内でも東京証券取引所（企業情報開示）、国税庁（納税申告）、日本銀行（財務報告）などでの採用が進んでいる。
XML	eXtensible Markup Language の略。平成 10 年 2 月に W3C で勧告された標準データ仕様。データにタグ付けをすることで、データ自身に意味づけを記述できるため、コンピュータと人間の双方がその内容を理解することができる。特定の OS、アプリケーション、ベンダーなどに非依存であることが特徴。現在では企業間電子商取引からブログまで広く普及している。
アーキテクチャ	〔Architecture〕 構造。基本設計。設計思想。
アイコン	〔Icon〕 コンピュータで、ファイルの内容やプログラムの機能などを絵文字にしてディスプレイ上に表示したもの。
イントラネット	〔Intranet〕 インターネット標準の技術を用いて構築された企業内ネットワークとそのネットワーク上で稼動するアプリケーションソフトウェア。主としてブラウザを端末として使用する。
エンタープライズ	〔Enterprise〕 企業。主として中堅以上の規模の企業に使われることが多い。
オープンソースソフトウェア	〔Open Source Software〕 OSS と略されることもある。ソースコードが広く一般に開示され、多くのエンジニアのボランティアで開発しているソフトウェアまたはその仕組み。無償で提供されることが多い。
クライアント	〔Client〕 ビジネス現場の人間が直接操作するコンピュータで、特にサーバー※に繋がって機能する端末を指す。「パソコン」と呼ぶこともある。
クラウド・コンピューティング	〔Cloud Computing〕 企業が、ハードウェアやソフトウェアの資産を自前で持たずにインターネット上に存在するハードウェアやソフトウェアを必要に応じて利用する形態。
グラフィカル・ランゲージ	〔Graphical Language〕 アイコンを並べ繋いでシステムを構築する開発手法。Java や C 言語などのように文字のみでソースコードを書くのではなくグラフィックを使ってプログラムを書く。
コーディング	〔Coding〕 アセンブラ※、C 言語、Java など文字を使用したソフトウェア開発作業の総称。
コンテンツ	〔Contents〕 内容、中身という意味の英語。コンピュータで記録・伝送し、人間が利用する情報。例えば、画像、映像、音楽、文書など。
サーバー	〔Server〕 情報システムにおいて、クライアント※に対し、データや機能を提供するコンピュータ。
システムインテグレーション	〔Systems Integration〕 さまざまなソフトウェアやハードウェアを組み合わせる特定顧客のニーズに合わせたシステム構築を行うこと。

用語	解説・定義
システムインテグレータ	〔Systems Integrator〕 さまざまなソフトウェアやハードウェアを組み合わせる特定顧客向けにシステム構築を行う企業。
スマートフォン	〔Smart Phone〕 パーソナル・コンピュータと同等以上の機能をもった携帯電話。
ソーシャルカレンダー	〔Social Calendar〕 個人の予定、社内の予定、特定のグループの予定、インターネット上に公開された予定などさまざまな予定を組み合わせる表示することが可能なカレンダーソフトウェア。
ソースコード	〔Source Code〕 人間が理解できるプログラミング言語を用いて書かれたソフトウェアの設計書。通常は、プログラミングの言語仕様と、その言語仕様に沿って書かれたソースコードをコンピュータが直接実行可能な形式にする変換ソフトウェアを含む。
ソリューション	〔Solution〕 顧客の特定の問題を解決するために、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークなど必要なものを組み合わせる提供情報システム。
ブログ	〔Blog〕 インターネット上で特定の人々が日記や論評などを一定の頻度で公開している Web サイト。一般的にブログ用ソフトウェアやブログサービスを使用して書かれたものを言い、HTML だけでなく XML によるデータ配信や、トラックバックと呼ばれる自動リンク機能の特徴とする。
プロトコル	〔Protocol〕 ネットワークを介してコンピュータ同士が通信を行うために、あらかじめ相互に合意した通信手順。
ベンダー	〔Vender〕 製品やサービスを提供する企業。
ミッションクリティカル	〔Mission Critical〕 極めて重要な任務のこと。例えば、企業において金銭にまつわるシステムや機密性の高いデータ処理で問題が発生すると巨額の損失や、企業信用が失墜したりすることがある。このような業務を行うためのシステムには、極めて高い信頼性や耐久性が求められ、このような性能・性質をミッションクリティカルと呼ぶ。
ミドルウェア	〔Middleware〕 中間に入るソフトウェア。例えば、基幹システムとユーザーシステムの間に入るソフトウェアや、複数の業務システム間に入るソフトウェアのことを指す。
メインフレーム	〔Mainframe〕 汎用の大型コンピュータで極めて高い信頼性と性能を実現する機構を備えたもの。電源、CPU、記憶装置を始めとする構成要素の多くが多重化されておりまた耐障害性の向上が図られている。独自の OS で稼働していることが多い。
ユーザーインターフェイス	〔User Interface〕 アプリケーションソフトウェアを人間が操作する方法。同じ機能でもユーザーインターフェイスが違うだけで操作性や効率が大きく異なることがある。